

成溪會誌

1990・1 No.70



成蹊会会長に 就任して

永井 邦夫

前会長の生野専吉さんの御病氣を知りご案内申して居た矢先、去る六月初めに御逝去されてしまいました。この間の時日の経過はまことに早く哀惜の情まことに深いものがあります。御快癒を信じてはいましたが同窓会の会務の遂行上都合もあると云う先輩方や事務局の発意で成蹊会々長代行の議が出て来たのはその項のことであり、今更太先輩方に御出馬願うのも如何かと云うことで旧制高校同窓会の会長である私に暫らく会長代行をとの御指示があり後にも述べる様にまことにその能力も無いことを知り乍らも生野さん御全快迄のショートリリーフと云う軽い気持ちでお引き受けした処、その代行職が成蹊会の正式機関で承認される前に生野さん御逝去の訃報に接して了ったのであります。

かくて愈々生野さんの後任会長の選任を余儀なくされ「代行」の二字が外されて図らずも私がこのお役目をお引き受けすることとなりました。そして去る六月二十八日開催の成蹊会総会に於いて正式決定されたのであります。

以上が不肖私が今回成蹊会々長に就任するに至った経緯であります。どう考えても光榮ある同窓会の会長となり、

然も輝かしい歴史を持つ成蹊学園卒業の諸兄弟姉妹の総意を汲み取って「卒業生の輪（和）」を円滑に纏めて行く自信はありませんが、選任されたからには先輩方や成蹊会事務局が積み上げて来られた貴い実績と、会員諸兄弟姉妹が成蹊学園に対して持ち続けて来られた愛情の蓄積の上に微力ではありますが与えられた期間その任務を果す努力を傾ける覚悟であります。

今日迄成蹊会々長をつとめて来られた総ての方は中村先生の創立の精神を汲みとられ且亦池袋時代を経験された方々であり、謂わば正統派成蹊人であったと思います。私は池袋とは僅か一年の通学経験しか無く昭和十年高校卒業迄の十年余を吉祥寺で送ったに過ぎません。然し妙山堂のジャムパンの味は覚えて居ますし、長崎村のお富士さんも知って居ます。又成蹊との縁と云うことになりましますと中村春二先生と私の亡父が高師附属中学以来の学友であり、私の兄弟も息子も婿も成蹊にお世話になり、更に孫達も現在小学校で楽しく勉強させて頂いて居る次第で、ここに至っては及ばず乍ら御恩返しをせねばと云った私情も手伝って居ります。

さて成蹊会の構成は諸兄弟御承知の通り十一同窓会から成り立って居り会員数も本年三月末現在、実に四三、〇〇〇名を数える大世帯です。然も成蹊学園の生きた歴史を物語る様に池袋成蹊会に総称される明治時代創立の実務校他の卒業の御長老から、歴史の変遷に伴う諸学校の先輩方、そして七年制高校時代の者、更には太平洋戦争敗戦後の学制改革の大転換に伴う大学の設立に依る諸学部卒業生と実に八十年余の脈々たる歴史を基礎として居ます。成蹊会も亦周知の通り五十年余の歴史を有し所謂成蹊精神の承継者として重大な使命を負う団体に成長して居ります。

現在迄幾多の卒業諸兄弟の中から社会の凡ゆる分野に貢献された多くの異才を輩出して居り、又過ぐる大戦の犠牲となられた方も多く居られます。然し同窓会の使命は若き日に夢を懐き理想を望んで青春を燃焼した学び園で培われた友情を一つの共通項として相互の親睦を図って社会的貢献を実現しようとするところであり、とかく緩み勝な紐帯を纏め且つ引き締めることにあると思います。

成程明治から平成の今日迄の時代の

広がりと言ふかスパンは真に広く、物事の思考に於いても各世代各時代、戦前戦後等の隔りにより千差万別でありましよう。従って会員総員のお考えの最大公約数を何処に求めるかは容易なことではないと思います。ただ願うのは成蹊に学んだと云う共通項が会員諸兄弟の胸裡深く生き続け、その信頼のもとに同窓会活動も続けられ行くことではないでしょうか。

従来クラスの取り纏めをやったり旧制高校同窓会の会長をやった感じだとは限られた同時代の方々の中にも極めて多くの考え方があつたと云うことであります。比較的少数教育で来た成蹊に於いてすら斯くの如き次第であることは驚きですが之が現実の社会でありますから最大公約数に近い方策を模索し乍ら同窓会の運営を続けて行くより他ないと思います。どうかこの辺を御諒察願って御協力戴きたいものです。

時代の変化はまことに速く池袋時代と現在とは到底比較の出来ない相違があり、私などが学んだ吉祥寺時代は現在の学園本部の入って居る校門正面の赤レンガの建物に小学校一年から高校三年迄一部理科館に居たがーが収容されて居ました。池袋時代はもつとこじんまりして居たのでしう。所謂

家族的零團氣からマンモス化への傾向は日本全体の人口増と制度の変化で止むを得ませんが中村先生が歌って居られる如く
道のべの椎の一本葉かげなお
まばらなれども椎の一本
の御精神は永久に生かして行きたいと思ひますし、それが同窓生としての使命と責務でありましよう。

次に事務的なこととなりますが、従来各同窓会が個別に役員を設けられて夫々の活動を続けて来られたのは前述の通り各時代格的差の然らしむる処で結構なことと思いますが、そのとり纏め役としての成蹊会としては時々刻々時宜を得た企画により定例行事と特別行事に分けて執行して来ました。直近のこととしては成蹊会設立五十周年記念としての募金活動を行い学園に対して史料館建設資金の一端として寄附しましたのは御承知の通りであり、生野前会長も御病床にあつて殊の外心を砕かれましたが最近上々の成果を挙げて無事終了しました。此の他年々の定例行事としては総会の開催、同窓会役員の二年毎の改選、会員名簿の発行、二月の枯林忌の開催等がありますが、会員の中にはオール成蹊の集会開催の御意見もあり、なにかの節目になんらか

の新しい企画を考えて見たいと思ひます。何分価値観の多様化の世の中でありまうので仲々思うにまかせぬのが悩みの種であります。が会員諸兄弟よりの積極的建設的な御意見御提案を成蹊会事務局宛是非共御開示戴ければ幸いです。

既述の通り四三、〇〇〇人からの会員の中の多くの方は戦後の大学創立後の方々であり、学園に通われた時間の長短は千差万別であらうと思ひますし、それだけに母校に対する愛着にも異なるものがあると思ひます。然し「家はななり母校成蹊」と歌われて居る通り諸同窓会は一つの輪を為して居るのです。従つて之等比較的若い会員方の御意見は之から先の会務遂行には是非共汲み上げて行かねばならないことと信じます。私見ですが成蹊会の執行部も出来るだけ早く次世代の方にやつて戴くべきだと思ひますが、当面の処はリリーフピッチャーであらうとならうと任期一杯せいぜいお役に立ちたいと願つてます。

唐突の会員就任にいきさか顛倒して居ますが誌上を藉りて御挨拶させて頂きました。

オルガン取締役会長（旧高10年卒）



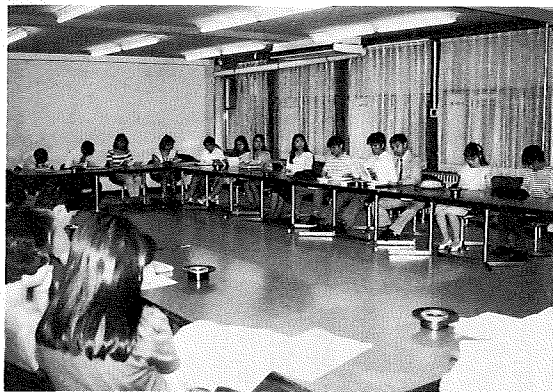
成蹊学園近況

(成蹊学園
総務課提供)

大学の近況

◇ 成蹊大学進学相談会

東京都及び近県在住の高校生、予備校生、父母等を対象に、去る七月二十九日(土)、三十日(日)へいずれも午後一時から五時までの二日間、進学相談会を実施しました。当日は、各



担当者が出席して個別相談に応じました。今年は特に新しい試みとして、在学生を囲んでの懇談会・個別相談を組み好評でした。各学部・学科の内容及びカリキュラムについて、また、卒業生の就職状況、課外活動など熱心な質問が相つぎました。参加者(参加者数計四百十八名)の中には、遠く宮崎、広島、岡山、三重から来校した者もおります。

これと並行して、主要な行事・授業風景等、四季を織りこんでの大学の一年間の生活を紹介したビデオの放映と、希望者には学内施設の案内を行いました。

参加者のほとんどが成蹊のキャンパスは初めてで、「緑が多く、自然の環境がすばらしい」「自分の志望する大学がどういう所か、はつきり分かって大変よかった」など、率直な感想を聞くことができました。

◇ 父母懇談会

(経済・法・文学部)

本学を会場にして、経済学部・法学部が関東地区を対象に、文学部では全国の地域を対象にして、別表のとおり父母懇談会が開催されました。

学部	開催日	会場	対象者	参加父母数
経済学部	7月8日(土)	学園史料館	東京都、埼玉・千葉・神奈川・茨城・栃木・群馬県在住の二年次生父母	100名
法学部	7月22日(土)	学園史料館		92名
文学部	10月14日(土)	学園史料館 職員食堂及び	全国各地の三年次生父母	105名

当日は学長、学部長をはじめ、各学部とも関係教職員が出席して「大学の現況」「学生生活について」等の説明があり、続いて個別懇談(経済・法)、学科別グループ懇談(文)を行い、盛況のうちに終了しました。

◇ 成蹊大学公開講座

本学の公開講座は、昭和五十八年度に始まり、当初は年一回の講座でしたが、昭和六十二年からはスポーツ教室(硬式テニス)が加わり、さらに昭和六十三年度からは講座も年二回となり、開かれた大学としてますます地域に定着し、回を重ねることに好評を得ております。

本年度は別表のとおり、Iとして五

回の独立講座を、IIとしてスポーツ教室(硬式テニス)を、IIIとして統一テーマによる五回の講座を行いました。IIのスポーツ教室(硬式テニス)は初級者を対象としたもので、大学体育科教員と共に、アシスタントとして、大学体育会硬式テニス部学生が指導に当たり、規律正しい態度、懇切丁寧な指導は、大学ならではのものと大変好評でした。

またIIIは、「市民生活と税金」とい

う統一テーマが時機を得たものとして、幅広い層からの受講希望があり、毎回

充実した講義が行われました。

(成蹊大学学長室)

公開講座 I

(申込者 百四十一名)

開催日	講座名	講師
6月24日(土)	「天皇の世紀」をめぐって	村上光彦 成蹊大学文学部教授
7月1日(土)	日本の行政と国際的政策	河中二二 成蹊大学法学部教授
7月8日(土)	情報科学の発展	高木正英 成蹊大学工学部教授
7月15日(土)	古代天皇制の諸相 ―天平改元と長屋王の変を中心に―	宮本 救 成蹊大学経済学部教授
7月22日(土)	マス・メディアと社会	内川 芳美 成蹊大学文学部教授

公開講座 II

(申込者 五十四名)

開催期間	講座名	講師
7月10日(日) 13日(木)	スポーツ教室 (硬式テニス)	本大学体育科目 担当専任教員

公開講座 III

統一テーマ 「市民生活と税金」

(申込者 百二十二名)

開催日	講座名	講師
10月14日(土)	税金―にし・ひがし	新井 益太郎 成蹊大学経済学部教授
10月21日(土)	くらしと地方税	成道 秀雄 成蹊大学経済学部助教授
10月28日(土)	くらしと消費税	滝島 義光 大蔵省関税局長
11月4日(土)	くらしと相続税	桜井 四郎 税理士・ 前東京地方裁判所調査官
11月11日(土)	明治・大正・昭和 税制事件史 ―社会と税制―	武田 昌輔 成蹊大学名誉教授

中学・高等学校の近況

夏の学校を最後に夏休みに入った中学・高等学校では、今年も夏休み期間を利用して、中高正門、理科棟、管理棟の改修工事が行われ、昨年にひきつづき、教育環境の整備が進みました。中高正門は、学園正門をやや小振りにしたかたちですが、樺の並木とも調和のとれた、デザイン・色調の美しい門です。

この門と同時に、学園グラウンド寄りのレンガ塀も新しいデザインで作り替えられ、門前の駐車スペースを囲うように設けられたサツキの植え込みには、時期を選んで桃の木が植えられる予定です。また、学園正門から中高正門につづく樺並木も、九月中旬から工事が始まり、十二月末にはインターロッキング

ブロック舗装の美しい道路に装いを變えることになっています。

九月三十日(土)、十月一日(日)の両日には、蹊蹠も終わりました。毎年特別教室で発表される演劇、コーラス、ストリングス、吹奏楽のレベルも年々向上し、大変な人気を呼びました。

特に中高合同吹奏楽部は、この夏、昨年について東京都高等学校吹奏楽コンクールに出場し、銀賞を獲得すると



新しくなった中学・高等学校正門

いう活躍をしました。

そこで今回は、このコンクールに、高校生に混じって参加した中学生の部員を代表して、川真田明子さん(中学

第二十九回東京都高等学校 吹奏楽コンクールに出場して

中学三年 川真田 明子

下さいました。

例年になく暑い夏の八月十七日は、私たち成蹊中高合同吹奏楽部の部員にとって、汗と涙と興奮いっぱい最高の暑い一日となりました。というのは、東京都高等学校吹奏楽コンクールのAクラスで、出場二回目にして銀賞を獲得した日だからです。(高校生の大会ですが、私たちのバンドは中学生が半分もいたにもかかわらず……)

このコンクールにむけ、私たちは、辛くて長い練習を重ねてきました。夏休みになっても普段よりいそがしい毎日がつづき、ほとんど休みがありません。毎日普段どおりにお弁当を作ってくれる母、毎日練習をみてくださった半谷先生をはじめとする先生方、私たちの練習を陰で支えて下さったみなさんがこの銀賞獲得をいっしょに喜んで

三年生)に体験記を書いてもらいました。

(中学・高等学校教頭 横地 孝)

思い起こすと去年、コンクールで銅賞だったというくやしさがこの一年の私たちの練習の原動力となっていました。そのため、それまでの合宿や夏休みの練習と比べ、みんなの気迫がちがいました。

合宿では、朝から晩まで練習でした。私は、半谷先生に怒られっぱなしだったので、朝みんなより早く起きて、朝ごはん前に練習したりしていました。半谷先生は、コンクールが近くなってきたせいで、いつにもまして怒りっぽくなっていました。そして、練習の間の休み時間中でも、先生はずっと一人で指揮の練習をしているのです。

「いや、ちがうなあ」

とぶつぶつ一人ごとをいいながらずつ

と練習している半谷先生に、私は「先生、今は休み時間だからそんなことをしないでゆつくり休んで下さい。でないと気が狂ってしまいますよ」と言いました。すると先生は私に

「いや、みんなだつて練習しているから僕もしなくちゃいけないんだ」といってまた指揮の練習をはじめました。私はその姿にただなにもいえず脱帽……。

でも合宿は、辛い練習ばかりでなく、楽しいレクリエーションもありました。先輩たちが企画して下さった楽しいゲームをしたり、女装コンテストをしたり、とても楽しくて良い骨休めになりました。

合宿も終わり、また学校での練習が始まると、コンクールを意識しているせいか、練習中に緊張感が漂うようになりました。そしてうまく吹けないなどと悩んでいるうちに、コンクールはどんどん迫ってきました。

いよいよ当日、舞台裏で、前の学校の演奏が終わるのを待つ間、私を含めてみんなが緊張していました。前の学校が終わわり、いよいよ今までの練習の成果を二気に発揮する時がやってきました。そして、半谷先生が指揮棒を振

ると、みんなが一体となり、今までで最高の良い演奏をすることができました。演奏が終わると今までの緊張がいつきにほぐれて、ほっとしました。楽器をかたずけてみんなが客席にもどり、結果発表を待ちました。いよいよ結果発表が始まると、私は演奏したときよりももっと緊張していました。発表がどんどん進み、いよいよ私たち成蹊の番です。

「成蹊高等学校。銀賞」

小学校の近況

◇ 運動会

昨年は途中から雨に降られて、子どもたちには気の毒な思いをさせましたが、今年は天候に恵まれて、実のある運動会を終えることができました。

その一つ一つを紹介することはできませんが、低学年ダンス種目で、「ソーラン節」をおどった子どもの日記がありますので、お読みいただくことにします。

五月二十四日 わたなべ まちこ
わたしは、ソーランブシの、こしを



ソーラン節 (2年生)

おとすところは、だいたい二分ぐらいおとすと、もう、つかれてきてしまいます。だけど、いまは、もつとながく

「ヤッター」

みんな喜びの声をあげました。

私は今まで練習してきて本当によかったと思いました。本当のことをいって、銀賞でこんなに喜んでる学校はいませんでした。でも私たちにこの銀賞は、他の学校の金賞に負けないくらいすごいものだったのです。またこれからは今まで以上に練習をどんどんして、来年はきつと金賞をとりたいと思います。



チームワークで一体育発表一(3年生)

おとせます。

このあいだ、うちで、ソーランブシをおどったら、おかあさんたちが、「うまいね」といつてくれました。わたしは、いままでも、ソーランブシが、へただとおもってたので、とってもうれしかったです。

うんどうかいがおわったあと、おかあさんが、「おしえて」といつていました。だけど、おかあさんは、こしをおとすとき、すぐ、いたい、いたいというので、むりだらうなとおもいました。おばあちゃんも、おしえてといつていましたが、ピョンと、とびあがるところはむりだらうな、とおもいまし



騎馬戦 (5・6年生)

た。

わたしは、ソーランブシを、うんどうかいのとき、おかあさんが、「うまかったよ」といつてくれたので、うれしかったです。

子どもたちは、運動会の練習のなかでさまざまなものを学んでいきます。「ソーラン節」のおどりだけをとってみても、体力・気力が伸びたり、リズム感を身につけたり、民謡のよさに気づいたり、働く人に目を向けたり、集団の美しさを作る一員としての自覚を持つたりしていきます。

他の種目も、子どもたちは一生懸命

平成2年度 学生・生徒・児童募集案内

● 大 学

学部・学科	募集人員	願 書 受 付 期 間		入 学 試 験 日		合 格 発 表 日	
		一 般	海 外	一 般	海 外	一 般	海 外
工学部	機 械 工 学 科	60名	(平成元年) 9月25日(月) 10月6日(金)	2月11日 (日)	(平成元年) 10月18日 (水)	2月17日 (土)	(平成元年) 11月15日 (水)
	電 気 工 学 科	60名					
	工 業 化 学 科	60名					
	経 営 工 学 科	60名					
	計測数理工学科	40名					
文学部	英 米 文 学 科	160名	<郵送の場合> 1月8日(月) ～1月25日(水) —郵送必着— <窓口の場合> 1月26日(金) ～1月27日(土)	2月12日 (月)	(平成元年) 11月1日(水) 11月4日(土)	2月18日 (日)	(平成元年) 11月15日 (水)
	日 本 文 学 科	80名					
	文 化 学 科	150名					
経済学部	経 済 学 科	240名		2月13日 (火)	(平成元年) 11月2日 (水)	2月20日 (火)	
	経 営 学 科	160名					
法学部	法 律 学 科	230名		2月14日 (水)	(平成元年) 10月26日 (水)	2月21日 (水)	
	政 治 学 科	120名					

● 高等学校

募 集 年 次	募 集 人 員	願 書 受 付 期 間	入 学 試 験 日	合 格 発 表 日
第 1 学 年	約110名	1月25日(水)～1月30日(火)	2月18日(日)	2月20日(火)
海外帰国子女	若 干 名	2月15日(水)～2月17日(土)	2月25日(日)	2月27日(火)
第2学年編入	若 干 名	3月5日(月)～3月9日(金)	3月11日(日)	3月13日(火)

● 中 学 校

募 集 年 次	募 集 人 員	願 書 受 付 期 間	入 学 試 験 日	合 格 発 表 日	備 考
第 1 学 年	男子 約80名 女子 約30名	1月20日(土)～1月24日(水)	2月1日(水)	2月2日(金)	
国際特別学級	第1学年約10名 第2学年若干名 第3学年若干名	2月15日(水)～2月17日(土)	2月24日(土)・25日(日)	2月27日(火)	*4月期募集
国際特別学級	若 干 名	(未 定)			*9月期募集

● 小 学 校

募 集 年 次	募 集 人 員	願 書 受 付 期 間	入 学 試 験 日	合 格 発 表 日	備 考
第 1 学 年	114名	(平成元年) 10月11日(水)～10月18日(水)	(平成元年) 11月7日(火)・8日(水)	(平成元年) 11月9日(水)	
第3学年編入	6名	2月19日(月)～2月24日(土)	3月3日(土)	3月5日(月)	
国際特別学級	二期合わせて	2月19日(月)～2月24日(土)	3月3日(土)	3月5日(月)	*4月期募集
国際特別学級	第5学年15名	(未 定)			*9月期募集

※ 詳細につきましては、各学校事務室(大学は入学課)にお問い合わせください。

取り組んで、この日記にあるような喜びを味わってくれたものと思います。

◇ 夏の学校

今年の夏の学校は、伊豆半島 伊東付近の群発地震と海底火山の噴火によって、四年生の弓ヶ浜における実施を中止しなければならぬという、残念な事態になりました。入手できる限りの情報をもとに、熟慮して決定したものです。子どもたちの期待を思うと、まことにすまなく思うのですが、人命の安全を思えば止むを得ないことでした。しかし、九月に二泊三日の奥日光での『秋の学校』を実施しました。な



安達太郎山頂上、万歳(3年生)



志賀高原(5年生)



波左間(6年生)

お水泳訓練は、夏の学校の期間を利用して、水泳師範・助手の皆さんに来ていただいて北プールで実施し、成果をあげることができました。

三年生は、今まで、六月に箱根で行っていましたが、今年からは、夏の学校を同時期に行うという基本方針から、新しく福島県の土湯温泉で行いました。この地方はたいそう自然に恵まれていて、山歩きなど鍛錬としての条件には格好の地です。三年生は安達太郎山登山や男沼・女沼めぐりなど、鍛錬を中心にした日程を組み、予期以上の成果を得ました。しかし、宿泊地としては、

温泉街の一角であるとか、宿舎の近くに遊び場や、集合地がないなどの問題点も指摘されています。

六年生の場合、近年にない好天に恵まれて実施することができました。気温・水温ともに高く、予定された遠泳も事故なく終了しました。帰京時、真っ黒に日焼けした子どもたちを見て、出迎えに來られた保護者の方々も驚かれています。

それにしても、例年のことながら、卒業生・先輩の水泳師範・医師・コーチ・師範助手の皆さんにはたいそうお世話になりました。紙面をお借りして

深くお礼を申し上げます。その他の学年も、それぞれ、ますますの天候に恵まれて、無事に終わることができました。

◇ その他の行事

☆四月二十八日(金) 全学年「遠足」
☆六月二日(金) 一・六月五日(月) 四年生「海浜学習」
場所 成蹊学園波左間寮
☆六月二十九日(木)

「子ども音楽会」

場所 武蔵野市民文化会館

演奏 ジャパン・スーパースターズ

☆七月七日(金) 「七夕集会」

☆夏の学校(前述の他)

一年生 箱根 成蹊学園寮

二年生 箱根 成蹊学園寮

五年生 志賀高原 成蹊学園寮

☆九月二日(土)

国際特別学級九月編入試験実施

入学者 男子三名 女子二名

(小学校長 亀村 五郎)

成蹊会報告

平成元年5月1日
平成元年10月31日

一、会 議

○理 事 会

第102回理事会(1・5・25)

(1)昭和63年度成蹊会事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件

(2)財産目録(平成元年3月31日現在) 承認の件

(3)成蹊会特別会員(教職員) 推薦の件

(4)成蹊会会長代行選任の件

第103回理事会(1・7・24)

(1)成蹊会会長・副会長・常務理事互選の件

(2)会長職務代行指名の件

(3)特別委員会規程の一部改正の件

(4)特別委員会委員選任の件

(5)第30回謝恩顕彰会開催の件

(6)顧問推薦の件

(7)成蹊クラブ改装移転の件

○会 員 総 会

平成元年度(秋)叙勲受章者

勲一等瑞宝章

香月 秀雄(旧高12年卒) 元千葉大学学長

勲二等瑞宝章

篠原三代平(特別会員) 元成蹊大学経済学部教授

勲三等瑞宝章

赤星 国夫(旧高13年卒) 元国鉄副技師長

(敬称略・叙勲は勲三等以上・本会調べ)

○理事・監事(6月28日・第36回評議員会)
○評 議 員(6月28日・第34回会員総会)

○印 理事(評議員兼任) 28名

△印 監事(評議員兼任) 3名

○印 顧問(評議員兼任) 2名

無印 評 議 員(総数) 89名

○安藤 創造(政経8) ◎青葉 翰於(実8)

赤星 平馬(中8) ◎赤星 有一(法4)

朝倉 孝吉(旧高16) 浅田 衛経(3)

井原 一雄(高7) ◎井本 農一(旧高6)

池田 重隆(旧高17) 池田 孝夫(高10)

○石坂 泰彦(政経1) ◎板倉 喜一(小22)

○岩崎英二郎(旧高15) ◎岩崎 寛彌(旧高23)

瓜生 芳久(工8) ◎小川 孝一(経2)

大島 庸元(工2) ◎岡田 健一(工2)

○梶谷 玄(高4) 片岡ちづか(文17)

北畠 裕子(女22) 久我 太郎(旧高16)

○倉島 喜一(文4) 栗原美能留(中4)

○桑田 桂子(文1) ◎河野 義克(旧高6)

○佐藤友一郎(経2) 斎藤 美幸(文16)

○篠原 周平(高2) ◎島田喜久子(女17)

高田 亨(実11) ◎高橋 靖(政経6)

○高橋 元雄(実8) 高橋 龍一(法6)

丹治 誠(高3) ◎丹治 道生(旧高4)

塚原 俊平(政経18) 土井 厚(旧高13)

○永井 邦夫(旧高8) 橋本 竹夫(工5)

浜中 泰男(法1) 林 進(経4)

原田 住江(小19) 正田 立郎(経2)

平本 勉(法4) 堀 純子(文9)

藤田 暉夫(政経3) 堀 洋二(医歯4)

松沢 裕一(政経8) 松平 一郎(中9)

第34回通常会員総会(1・6・28)

(1)昭和63年度成蹊会事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案承認の件

(2)昭和63年度財産目録承認の件

(3)平成元年度事業計画及び収支予算案承認の件

(4)成蹊会評議員選任の件

○評 議 員 会

第36回評議員会(1・6・28)

(1)成蹊会理事及び監事選任の件

○特 別 委 員 会

育英奨学委員会、学術・教育助成委員会(1・5・8)

財務委員会(1・5・10)

成蹊クラブ委員会(1・5・19)

広報委員会(1・5・22)

成蹊クラブ委員会(1・5・31)

育英奨学委員会、学術・教育助成委員会(1・6・19)

成蹊クラブ委員会(1・6・20)

○同 窓 会

プレメ幹事会(1・5・17)

高校(新制)委員会(1・7・3) 法学部委員会(1・7・10)

工学部幹事会(1・9・29) 工学部幹事会(1・10・20)

○支 部 会

中国支部総会(1・7・1) 千葉支部総会(1・7・8)

二、人 事

○会長・副会長・常務理事(7月24日・第103回理事会)

会 長 永井 邦夫(旧高8)

副会長 高橋 元雄(実務8) 今村 知雄(旧高10)

石坂 泰彦(政経1) 高橋 靖(政経6)

梶谷 玄(高校4)

常務理事 谷岡喜久蔵(旧高11)

宮本 雄治(小27) 武藤 正司(法8) ◎宗像 英二(旧高1)

村井 勇夫(旧高16) 室橋 俊樹(高19) 森 一也(政経6)

森 紀二(高9) 安田 敬一(政経2) △山中 良平(政経6)

山本 亨介(政経3) ◎山本 龍二(医歯1) ◎山本 良介(高4)

湯川 佳宣(医歯4) 渡辺 次郎(高5)

○特別委員会委員(7月24日・第103回理事会)

財務委員会 10名

緒方四十郎(旧高20) 岸田 昭(旧高22) 小林 繁(旧高16)

高野 健次(旧高17) 高橋 靖(政経6) 平塚 保明(旧高1)

牧田 祐治(政経2) 皆木 肇(旧高23) 森本 隆(旧高16)

渡辺 昌郎(政経2)

育英奨学委員会 10名

栗飯原景昭(旧高20) 新居 嗣朗(高4) 井本 農一(旧高6)

伊集院 董(旧高12) 岩崎英二郎(旧高15) 小原 正弘(旧高5)

尾高 一(旧高13) 兼子 仁(高4) 佐藤 厳雄(政経9)

前沢 三郎(工1)

学術・教育助成委員会 10名

栗飯原景昭(旧高20) 新居 嗣朗(高4) 井本 農一(旧高6)

伊集院 董(旧高12) 石原 智男(旧高17) 岩崎英二郎(旧高15)

小原 正弘(旧高5) 尾高 一(旧高13) 兼子 仁(高4)

城戸 毅(高5)

成蹊クラブ委員会 10名

岩佐 威(政経2) 岩崎 健三(政経4) 菅野 建雄(政経13)

斎藤 敏夫(政経2) 桜井 治(政経1) 滝 秀彦(政経9)

沼野 昌平(政経1) 福田 恒雄(政経1) 森 紀二(政経11)

山本 良介(政経6)

広報委員会 10名

石坂 泰彦(政経1) 久保 敏(文5) 小島 勉(政経2)

竹中 巳之(政経5) 広瀬 正弘(高4) 藤田 暉夫(政経3)

松沢 裕一(政経8) 松田 直子(女28) 森 一也(政経6)

山本 亨介(政経3)

○同窓会役員

池袋同窓会

会長 高橋 元雄 (実8)

副会長 進藤 次郎 (中7)

小学校同窓会

会長 板倉 喜一 (22)

副会長 黒川 義雄 (15)

原田 住江 (19)

宮本 雄治 (27)

女学校 (やよい会)

会長 島田喜久子 (17)

副会長 北畠 裕子 (22)

高校 (旧制) 同窓会

会長 永井 邦夫 (8)

副会長 今村 知雄 (10)

幹事 栗飯原景昭 (20)

副幹事 久保 盛唯 (24)

高等学校同窓会

会長 梶谷 玄 (4)

副会長 篠原 周平 (2)

丹治 誠 (3)

高橋 靖 (4)

山本 良介 (4)

井原 一雄 (7)

碓本 勘二 (8)

池田 孝夫 (10)

渡辺 次郎 (5)

森 紀二 (9)

室橋 俊樹 (19)

幹事 長 渡辺 次郎 (5)

副幹事 長 森 紀二 (9)

大学政治経済学部同窓会

会長 高橋 靖 (6)

副会長 石坂 泰彦 (1)

牧田 祐治 (2)

藤田 暉夫 (3)

森 一也 (6)

安藤 創造 (8)

塚原 俊平 (18)

酒井 四平 (2)

副幹事 松沢 裕一 (8)

大学医歯学進学課程同窓会

会長 山本 龍二 (1)

副会長 堀 洋二 (4)

湯川 佳宣 (4)

赤羽 紀武 (7)

大学経済学部同窓会

会長 小川 孝一 (2)

副会長 佐藤友一郎 (2)

正田 立郎 (2)

林 進 (4)

大学工学部同窓会

会長 岡田 健 (2)

副会長 林 醇一郎 (1)

大島 庸元 (2)

佐治 邦彦 (2)

戸谷洋一郎 (2)

加藤 俊秀 (4)

橋本 竹夫 (5)

瓜生 芳久 (8)

幹事 長 高橋 道哉 (11)

副幹事 長 平井 司 (12)

原 節子 (10)

石垣 順史 (19)

大学文学部同窓会

会長 倉島 喜一 (4)

副会長 桑田 桂子 (1)

布川 純子 (9)

幹事 斎藤 美幸 (16)

片岡ちづか (17)

大学法学部同窓会

会長 力石 浩 (3)

三、催 事

○第29回日本寮歌祭 (1・10・8・日比谷公会堂)

四、刊 行 物

○成蹊会誌第69号発行 (1・6・1)

五、寄 付 金 (敬称略)

○成蹊会50周年記念事業 (芳名録・別冊)

○育英奨学基金

榎小西光沢堂本店 20万円

小西清平 (政経4回)

○学術・教育助成基金

伊集院 董 (旧高12回) 10万円

平成2年1月1日
編集兼発行人 谷 岡 喜久蔵
発 行 所 社団法人 成蹊会
〒180 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電 話 0422-51-2244(直通)・5181(交換)
FAX 0422-54-6766